

2023.04.06

PROG 成績と累計 GPA との相関関係分析結果

IR 室

標題の件、下記の通りご報告いたします。

記

1. PROG について

- (1)本学では学生の社会人基礎力の把握とその成長を図るため、PROG テストを導入している。
- (2)PROG はジェネリックスキルを測定するもので、内容は社会で役立つ「リテラシー（知識を活用して問題を解決する力）」と「コンピテンシー（人と自分にベストな状態をもたらそうとする力）」を計測する。
- (3)PROG の結果は Level1～7 の数値で示され、数値が高い（Level が高い）ほど社会に出て活躍する力が発達していることがわかる。
- (4)PROG は 2012 年 4 月にスタートし、日本日本全体で利用校は大学・短期大学合計で 496 校、受検者数は累計 127 万人（2021 年 7 月末時点）に上っており、教育インフラとしてその地位を確立しており、十分な信頼性がある。

2. 分析内容

- (1)2023 年 3 月卒業生（2021 年 4 月入学、2022 年度卒業）で、在学中に PROG テストを受検した学生の卒業時成績と PROG テストとの相関関係を調査した。
 - (2)具体的には卒業生が 1 年次に受検した PROG テスト結果と各卒業生の累計 GPA（当該学生の在学中のトータルな成績を表す）を比較し、相関係数を求める方法を採用した。
- (注) PROG の受検者数は 1 回目 152 名、2 回目 135 名、3 回目 83 名と回を追うごとに減少。傾向分析には対象者数が多いことが望ましいため、1 回目のデータを用いた。PROG は、学生が社会に出て求められる汎用的技能（ジェネリックスキル）を測定するツールであり、受検することは学生にとってメリットが大きい。
- 従って、受検者数が少傾向にあるのは好ましくなく、今後、先生方には学生に受検を強く勧奨するようお願いしたい。

【相関係数】

相関係数とは、2種類のデータの直線的な関係の強さを表す指標。-1 から 1 までの値をとる。1 に近いほど正の相関があり、-1 に近いほど負の相関がある、0 に近いほど相関がないことを意味する。

相関係数 (r)	相関の強さ
$-1.0 \leq r \leq -0.7$	強い負の相関
$-0.7 \leq r \leq -0.4$	負の相関
$-0.4 \leq r \leq -0.2$	弱い負の相関
$-0.2 \leq r \leq 0.2$	ほとんど相関がない
$0.2 \leq r \leq 0.4$	弱い正の相関
$0.4 \leq r \leq 0.7$	正の相関
$0.7 \leq r \leq 1.0$	強い正の相関

3. 分析結果（結論）

(1)リテラシーについては累計 GPA との相関係数が 0.36175 で、「弱い正の相関（リテラシーが高くなると累計 GPA もやや高くなる）」が認められた。昨年度も同様に「弱い正の相関」が判明したが、今年度も概ね同様の結果になった。

（注）別紙①ご参照

(2)コンピテンシーについては累計 GPA との相関係数が-0.12212 で、昨年度と同様、ほとんど相関がないことが判明した。

（注）別紙①ご参照

【詳細】

①リテラシーの同じ成績の学生をグループ化し、累計 GPA 平均値を表すと以下の表のとおり。リテラシー7 のグループは明らかに成績上位。リテラシー1 と 2 のグループの成績は他のグループに比し、明らかに低位。

リテラシー	累計 GPA 平均値
7	2.85
6	2.59
5	2.54
4	2.46
3	2.47
2	2.32
1	2.34

②①と同様に、コンピテンシーについても同じ成績の学生をグループ化し、累計 GPA 平均値を表すと以下の表のとおり。相関関係は無いと言える。

コンピテンシー	累計 GPA 平均値
7	2.51
6	2.44
5	2.43
4	2.45
3	2.46
2	2.48
1	2.58

4. 意見

(1) PROG 結果と成績の比較は昨年度に続き、2 回目。

結果は昨年度と同様、リテラシーについて成績との弱い正の相関が見られたが、コンピテンシーについては、相関が見られないという結論であった。

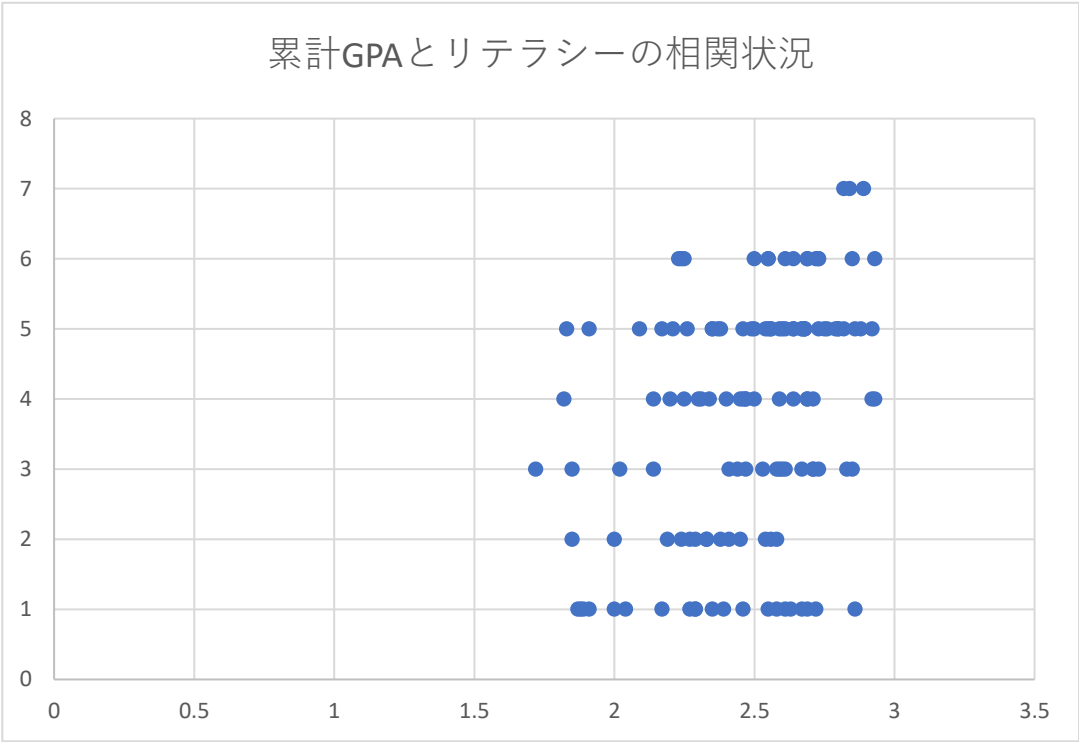
(2) 既に述べたように、PROG は学生が社会に出て求められる汎用的技能を測定できる有力なツールである。今後は学生に対し、受検の勧奨を徹底願いたい。

以上

累計GPAとリテラシーの相関係数

0.36175

弱い正の相関がある



累計GPAとコンピテンシーの相関係数

-0.12212

ほとんど相関がない

